

特別史跡熊本城跡の価値（案）

- ・ 中世の千葉城、織豊期の古城、近世城郭として完成した新城と、中世から近世までの城郭の変遷を城域内でたどることができる。また、城下町には今でも当時の町割が残る。
- ・ 熊本の文化の形成上で欠くことのできない加藤家や細川家の居城であり、江戸時代を通して肥後熊本藩の政治・経済の中心として機能した。
- ・ 幾重にも重なる郭や随所に設けられた櫓門や虎口による防御性は、非常に堅固で、要塞としての近世城郭の完成形である。加藤清正の実戦経験に基づいた工夫が随所に生かされている。その機能は、国内最後の内戦である西南戦争で発揮され、近代戦に耐えた希少な城郭である。
- ・ 重層的で優美な曲線を描く石垣や、宇土櫓などの多数の重要文化財建造物が良好に保存されており、さらに、復元された大小天守や本丸御殿等が加わり、江戸時代の雰囲気は今に伝える。この景観や歴史に親しむために国内外から多くの人を訪れる。
- ・ 市街地の中心にありながら緑が濃く、市民の憩いの場として愛されている。日本三名城に例えられる城郭は、市民・県民のシンボルであり、誇りとなっている。

※参考資料

指定理由 昭和8年2月28日

元茶臼山と稱せし丘陵を中心とし舊千葉城址及古城の地域に亘り加藤清正慶長六年より同十二年に至るまで凡そ七年を費やして築きたる名城なり後細川氏此の地に移封せられ多少改修せるところありしが明治十年西南の役陸軍少将谷干城之を死守し櫓樓多々焚毀したるも猶宇土櫓をはじめ十二の舊城門倉庫等今日に存せるあり石垣及城壕等多く舊規を保てり